

中日新聞 令和6年1月1日号より転載

新年のご挨拶



名誉会長 神田真秋

新しい年を迎え、皆様には決意を新たに令和六年のスタートを切られたことと存じます。

旧年中は何かとお世話になり、まことに有難うございました。本年もどうぞ中日書道会をよろしくお願い申し上げます。

皆様ご存じの通り、今年には中日書道会の創立九十周年に当たります。この記念すべき年が、本会および書道界にとって充実と発展の年になることを願わずにはいられません。どうか皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

ところで、昨年末の「国内十大ニュース」に、愛知県出身の棋士藤井聡太さんの「八冠達成」が選ばれていました。若くして前人未踏のタイトル独占を成し遂げ、国民栄誉賞も受賞されたのですから、当然のことと言えます。

実は私は、藤井さんのタイトル獲得もさることながら、かねてからその「書」についても刮目してきました。様々な機

会に色紙や扇面に揮毫する藤井さんの書を拝見してきて、この天才棋士の中の純粹で真摯な人間性に触れ、心に響くものがあったのです。「初心」「清新」「探求」「果敢」「飛翔」そして「万里一抔」「雲外蒼天」など、ひた向きに努力を続け、ものを究めようとする思いが見事に表白された書と言えます。

もちろん几帳面でまっすぐなその書は、決して習熟したものではなく、専門家の目からはまだまだ未熟なものと思われるに違いありません。藤井さん自身も書を習ったことがないと語っています。けれども、十代で棋界にデビューしまだ二十一歳という年齢で、伝統の書道によって自身の心境や決意を表現する姿勢に、私は強い共感と感銘を受けるのです。

いずれ時期が来て、藤井さんが書の師にも恵まれ本格的に書作をすることがあるとすれば、どんな作品を私たちに見せてくれるだろうかと、今から楽しみにしています。ITやAI全盛の時代にあつて、藤井さんの書が、これから書道を始めようとする若者たちにいい刺激になってくれることを望んでやみません。

令和六年が、皆様にとって素晴らしい年でありますようお祈り致します。



理事長 伊藤仙游

新年早々に発生しました能登半島地震には大変驚愕し、次第に明らかになる被害の状況に大自然の不条理を感じております。被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い支援と復興をお祈り申し上げます。

あらためまして皆様あけましておめでとうございます。令和六年、甲辰(きのえ・たつ)の新年をご健で迎えになられた事、心よりお慶び申し上げます。本年が皆様にとって輝かしい年となります事をお祈り申し上げます。

昨年書道界にはいくつかの慶事がございました。春には本会名誉会長代行樽本樹郎先生が旭日小授章をご受章になり、秋には他団体の先生ですが、井茂圭洞先生が文化勲章をご受章、黒田賢一先生が文化功労者顕彰をご受彰になりました。また、十二月の文化庁文化審議会無形文化遺産部会において、「書道」が本年度のユネスコ無形文化遺産の提案候補として選定され、二〇二六年にはユネスコ無形文化遺産の登録審議がなされる見込みとのこと。これらの慶事をきっかけに、書道界全体が活

性化し、益々隆盛発展することを期待しており、減少傾向にある本会の会員数も増加することを願っております。

目次

- 1 神田真秋会長「新年のご挨拶」
樽本樹郎名誉会長代行揮毫
伊藤仙游理事長「新年のご挨拶」
鬼頭翔雲名誉副会長「年頭所感」
第六十八回 現代書道二十人展「ご出品
第四回 書の匠展 第三十二回 壽書展
第三十五回 書道教育研修会
- 2 第二十七回 書の魅力 公開講座
会員交流ボウリング大会を終えて
- 3 理事会・評議員会・講演会のご案内
第十回 日展入賞・入選者
第七十三回 中日書道展出品案内(予定)
第七十三回 中日書道展作品展会場および会期予定
二〇二三年チャリティー愛の募金
募金参加者ご芳名
- 4 第二十七回 書の魅力 公開講座
会員交流ボウリング大会を終えて
- 5 理事会・評議員会・講演会のご案内
第十回 日展入賞・入選者
第七十三回 中日書道展出品案内(予定)
第七十三回 中日書道展作品展会場および会期予定
二〇二三年チャリティー愛の募金
募金参加者ご芳名
- 6 第二十七回 書の魅力 公開講座
会員交流ボウリング大会を終えて
- 7 理事会・評議員会・講演会のご案内
第十回 日展入賞・入選者
第七十三回 中日書道展出品案内(予定)
第七十三回 中日書道展作品展会場および会期予定
二〇二三年チャリティー愛の募金
募金参加者ご芳名
- 8 第二十七回 書の魅力 公開講座
会員交流ボウリング大会を終えて

さて中部日本書道会は、本年創立九十周年を迎えます。中部書壇を牽引してきた本会の輝かしい歴史にふさわしく、書道振興を図るべく様々なイベントを検討しております。

若者へのアピールを中心としたナディアパークでの参加型イベントと書道パフォーマンス、中日書道展愛知県美術館会場での特別展観と席上揮毫会の開催、記念リーフレットの発行など、細部は今後詰めていくこととなりますが、書を広い世代で多くの方に楽しんで頂けるようなイベントを考えております。

企画委員・事務局一同一致結束して事業の遂行に努めますが、この成否には皆様のご協力ご支援が不可欠でございます。本会が今後も確固たる歩みを継続できますように、皆様方のお力をお貸しください。今年の干支「辰」は竜ですが、皆様方のご協力により竜が雲や翼を得るよう、飛躍の一年になることを願っております。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健とご活躍をお祈り申し上げ、稿を閉じさせていただきます。

名誉副会長 鬼頭翔雲先生 年頭所感 (新聞掲載)



に大きな感動と、勇気・元気をもらいました。今年も各種記念事業を実施すべく準備を進めています。ITがますます発達し、新しい技術によって、私たちの生活も急速に変化していき

創立九十周年を迎えて

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 鬼頭翔雲

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は侍ジャパンのWBC制覇、エンゼルスの大谷翔平選手のホームラン王と二度目のMVP獲得、また藤井聡太さんの八冠達成など、若人の潑刺とした活躍が、本年が輝かしい年になることを願うとともに、本会百年事業の中目書道展は、六月を目標し、更なる書文化発展に愛知県美術館等で開催します。

中日新聞 令和六年一月一日号より転載

本会名誉会長代行

樽本樹邨先生

第六十八回

現代書道二十人展 ご出品

会期 令和六年一月二十七日(土)〜二月四日(日)
会場 松坂屋美術館 (松坂屋本店南館七階)

第四回書の匠展・第三十二回壽書展

第四回書の匠展・第三十二回壽書展を終えて

第二事業部長 馬場紀行

令和五(二〇二三)年度は十一月七日(火)から十二日(日)までの六日間の開催。名誉会長神田真秋先生の額作品「一步」と名誉会長代行樽本樹邨先生の「盪意」を中心に本会の重鎮から書の愛好家まで二一九点(書の匠展は一六五点、壽書展は五十四点)を電気文化会館西・東ギャラリーに程好く陳列した。書の匠展は常任顧問・役員・理事・顧問・参与・評議員と続き、その内容は漢字・かな・篆刻・近代詩文書・少字数書を網羅し、熟達した見応えのある作品の数々で鑑賞者を魅了したことでしよう。中日新聞掲載の記事では「多彩な書作品が揃い、近代詩文書は書くというよりは描くという表現が当てはまる」と評され、全国的にも珍しい作品構成が興味を引き、入場者も年々増加し、その認知度も増した。また、書は高齢者にとっては生涯学習であり、更に人前に作品を披露する事で緊張感と期待感が増し、壽書展では長年にわたって書に親しんでおられる方々には絶好の機会であったと推測する。



壽展会場風景



販いの書の匠展

第三十五回 書道教育研修会

第二教育部長 川崎尚麗

令和五年十月十五日(日) 国際センター五階第一会議室に於いて第三十五回書道教育研修会が行われました。五十五名の受講者が、午前九時から午後四時まで長時間、熱心に聴講と実技に取り組みました。

初めに副理事長の岡野楠亭先生より遊印一種類とその用法について、色々な印の資料を参考に書画作品に協調し合って作品を高める用い方について講話いただきました。

次に高木玄齊先生による『書いてみよう！初めての隷書』と題し、実技指導を頂きました。中国書道史の変遷による隷書の特徴や書体を図解で詳しくお教え下さいました。受講生の皆さんが真剣な眼差しで取り組み、先生がおひとりおひとり丁寧にご指導されている様子が印象的でした。

午後一時半からは、原田凍谷先生の『羊毛長長鋒の表現と使い方』と題し、羊毛長長鋒筆のいろいろな書き方や面白さを、プロジェクターを用いて先生が書いている所をお見せ下さりながら、受講生も一緒に詩文を楽しんで書くという方法で、楽しく研修が進められました。皆様に配布しました紙は、本場で用意させていただいたものです。最後に、終了証をいただき研修会が終了しました。来年も書道教育研修会に多くの方がお越しいただけますよう準備してまいります。

横井宏軒副理事長はじめ、企画委員の先生方、委員の方、出店いただきました菊屋商店様のご協力に感謝申し上げます。



岡野楠亭副理事長書道講話



近代詩文書講座 原田凍谷先生



漢字講座 高木玄齊先生



近代詩文書講座風景



漢字講座風景

令和五年度第二十七回 書の魅力 公開講座

研究部長 廣澤凌舟

十一月十二日(日)名古屋電気文化会館五階イベントホールに於いて「第二十七回公開講座」を開催いたしました。新型コロナウイルス及びインフルエンザ予防の為、マスク着用をお願いした上で六十八名(会員五十四名、会員外十四名)の参加者のもと行われました。

伊藤仙游理事長の開会挨拶に続き、第一講座は、理事の磯谷凌聴先生が「臨書を楽しむ」と題してご自身の経験をふまえて、好きな古典をひたすら新しい発見があると信じて練習することの大切さをお話し下さいました。また、半紙三行に自書された蘇東坡、米芾、黄庭堅の臨書を参考資料として配布頂き、更に先生の作品制作動画もご披露下さり、受講者の皆様には大変喜んで頂けました。

第二講座は、顧問の丹羽常見先生が「印泥の扱いと押印について」と題して印泥は使う度に練り混ぜ、長期使用しない時



第一講座 磯谷凌聴先生



第二講座 丹羽常見先生

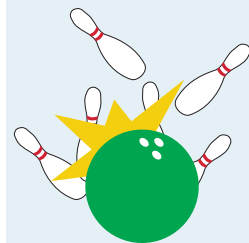
でもより良い状態を保つ為に月に一度は混ぜること。また、印面は紙や布で拭き取るのではなく歯ブラシに粉石鹸を付けて洗うこと等、美しい押印をする為に必要なことをお話し下さいました。また、良くない押印の実例も多数の写真を用いてご説明頂きました。最後に、受講者との質疑応答もあり有意義な時間を共有することが出来ました。最後に、受講者との質疑応答もあり有意義な時間を共有することが出来ました。

(文責 三代雄峯)

会員交流

ボウリング大会を終えて

厚生部長 伊藤昌園



十一月二十六日、星が丘ボウルにて、令和五年度中部日本書道会会員交流ボウリング大会が開催されました。星ヶ丘ボウル閉館の影響で、急遽予定日の変更を余儀なくされた為、支部の行事などが重なり、例年より参加者は減ってしまいました。ただ、理事長 伊藤仙游先生のご挨拶、副理事長 松下英風先生とお二人で始球式を行っていただいた後は、思い出のボウリング場の投げ納めにと参加して頂いた皆様は、ストライクの度、皆でハイタッチしたり、ライバルの点数を偵察、冷やかしに行ったりと、大変盛り上がりつつあったように思いました。その後、パーティールームにて、理事

長 伊藤仙游先生より成績上位者へのトロフィーと記念品の授与が行われ、応援からご参加いただいた、常任顧問 後藤汀篤先生から乾杯のご発声を賜り、終始和やかに懇談会がとり行われました。最後になりましたが、日程の変更にもかかわらず、ご参加いただきました、役員・企画委員の先生方。商品を提供いただいた協賛会員の皆様。そして、本会でも長年お世話になった星が丘ボウル様。本場にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



伊藤理事長、松下副理事長始球式



星が丘ボウル最後の大会風景

男性 1位	鈴木淑久	女性 1位	須田静波
2位	岩崎墨舟 (HG賞)	2位	土井祥泉 (HG賞)
3位	林 柏堂	3位	岡田愛子
ブービー賞	松下英風	ブービー賞	早川桃華

令和五年度
理事会・評議員会・講演会のご案内

〈予定〉

日時 令和六年二月四日(日)

会場 名古屋観光ホテル

第四回理事会

時間 十四時 より

第一回評議員会(報告会)

時間 十五時三十分より

講演会

時間 十六時三十分より

講師 日展会員 (彫刻) 櫻井 真理氏

演題 『私の彫刻人生』

懇談会

時間 十八時 より

第十回 日展 入賞・入選者

〈入選〉

愛知県

家田馨子 後藤啓太 豊嶋青岑 赤堀正風 堀部保子 鈴木香鵬 馬場紀行 磯貝弘子 伊藤翠芳 佐々木宏潤 鈴木裕子 成田尚子 水野佑華 若杉美香 板倉恵子 衣川彰人 清木美智子 畑裕子 草野慧泉 水野峯翠 梶山盛涛 高桑嚴風 山際雲峰 石川明歩

今田昌宏 近藤芳玉 片岡秋華 石黒直子 今井芝香 小坂克子 内藤一翠 高島濤翠 小野田美晴 田中幸江 村瀬俊彦 下村汀柳 香月久遠 神谷采邑 犬塚玉陽 波切童州 山崎曲全 大池青岑 稻垣華扇 田中石雲 片山清洲 青木美洲 家田翠徑 近藤青洸 戸田青楓 永井友理

岐阜県

上小倉積山 高木紅舟 寺尾桑林 寺本陽春 宮田洋美 後藤珠美 清水春蘭 塚田俊可 加藤紫雲 浅井祥舟

林玲玉 吉澤有岐子 青木榮俊 日比野妃扇 内田翠徑 今田紅溪 長屋天虹 林春翠 鈴木史鳳 白木紫香 小島岐香 古田祥扇

三重県

荒木敬子 荒木泉蓉 伊藤玉冰 岡野敬子 高橋華堂 中条彰山 山本雅月 佐久美泉涯 大嶋由美子 松井秀峰 松田典子 水谷有志 永平巳旺子

埼玉県

遠藤栄久

東京都

長谷川鸞卿

〔○印は初入選〕
※掲載のお名前は日展 ホームページ発表での名簿順となります

団体署名実施協力中



創立九十周年記念 第七十三回 中日書道展出品案内 (予定)

一、会場・会期

▼愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー 8F

○審査顧問・常任顧問・理事・監事・顧問・参与以上の役員は

第一期・第二期を通して二週間展示

○一科審・二科審・依嘱の作品は第一期に展示

○無鑑査・一科・二科（二科賞作品に限る）は第二期に展示

第一期 令和六年六月 十九日（水）～六月二十三日（日）

第二期 令和六年六月 二十六日（水）～六月 三十日（日）

○二科作品 令和六年六月 十一日（火）～六月 十六日（日）

▼名古屋市民ギャラリー栄7・8F

●創立九十周年記念特別展観『書に臨むー私はこう観るー』第一期・第二期を通して二週間の展示

●愛知県美術館ギャラリーー 第七十四回中日書きぞめ展 上位作品（二〇四点予定）を展示

一、出品部門

第一部 漢 字 第二部 かな 第三部 近代詩文 第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上（平成二十一年四月一日生まれ以前）の者とする。（但し十五歳から二十五歳までの者〔平成十年四月二日生まれから平成二十一年四月一日生まれまで〕は証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を提出する。）

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。★昨年度より一科の出品に作品寸法 A・B（二科出品サイズ）も出品することが出来ます。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。★一部変更があります。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。
（止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること）

一、授賞式

令和六年六月二十三日（日） 名古屋観光ホテル 午後三時半より（予定）

一、祝賀会

令和六年六月二十三日（日） 名古屋観光ホテル 午後六時より（予定）

一、入場料

三〇〇円（小・中・高校生は無料）、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱店がいたしますので、出品者は事前に取扱店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十五日（月）までとさせていただきます。

中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員（展覧会役員及び一科会員）の年会費も、取扱店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他

ご不明な点は二月末にお届けします出品規程・事務分掌でご確認下さい。

創立九十周年記念 第七十三回 中日書道展作品展示会場および会期(予定)

名古屋市民 ギャラリー栄7・8F		愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー8F		
二科		第二期	第一期	第一期・第二期
※1・2		二科賞作品(二科) ※2・3	一科審査会員 二科審査会員 依頼	審査顧問・常任顧問・理事・監事・顧問 ・参与以上の作品 創立九十周年記念特別展観 『書に臨むー私はこう観るー』※1
6/11 (火)				
12 (水)				
13 (木)				
14 (金)				
15 (土)				
16 (日)				
17 (月)				
18 (火)				
19 (水)				
20 (木)				
21 (金)				
22 (土)				
23 (日)				
24 (月)				
25 (火)				
26 (水)				
27 (木)				
28 (金)				
29 (土)				
30 (日)				
10:00~18:00 ※ 最終日は16:30 まで		10:00~18:00 ※ 23日(日)は 15:30 まで 最終日は 16:00 まで		

※1 御長寿作品(米寿)の展示についてー愛知県美術館ギャラリー8Fに展示、又二科の米寿作品は、市民ギャラリー栄と愛知県美術館ギャラリー7・8F(第二期)に展示します。

※2 二科賞作品(二科)は、市民ギャラリー栄と愛知県美術館ギャラリー7・8F(第二期)に展示します。

※3 障害者アーツ・アールブリュット「書」は第二期に展示します(予定)。

6/11 (火)
12 (水)
13 (木)
14 (金)
15 (土)
16 (日)
17 (月)
18 (火)
19 (水)
20 (木)
21 (金)
22 (土)
23 (日)
24 (月)
25 (火)
26 (水)
27 (木)
28 (金)
29 (土)
30 (日)

（一宮支部）

令和五年十二月四日（月）
中日新聞一宮総局へ村
上史麗支部長と吉田桃花
支部次長が訪問し、中日
新聞社会事業団の「年末
助け合い運動」にと一宮
総局長 渡部 圭氏に十
万円を寄託した。



大川	澄泉	大橋	一氏	長村	子鴻	加藤	永樵
大河	戸柳光	大橋	幽徑	小澤	佳路	加藤	杏華
大崎	水愁	大畑	麦川	尾関	楊花	加藤	玉華
大鹿	珠翠	大森	香鶴	落合	玉泉	加藤	月苑
大嶋	由美子	小笠原	青華	小野	蹊泉	加藤	光月
大曾	根弘風	岡田	愛子	尾之内	柳雪	加藤	紅泉
太田	佳香	岡田	恵香	小野田	晃志	加藤	秀慧
太田	紫翠	緒方	津苑	小野田	美晴	加藤	松雲
太田	浄泉	岡田	麗峰	小野田	美晴	加藤	翠林
太田	由香	岡地	紅華	鏡	千裕	加藤	夕堤
太田	葉子	岡野	敬子	加古	松泉	加藤	艸舟
大竹	玄友	岡本	桃香	加古	仔春	加藤	博子
大谷	素子	小川	琴風	籠瀬	提花	加藤	碧涛
大塚	窓月	奥田	蘭庭	梶山	盛涛	加藤	芳恵
大塚	裕子	奥村	三葉	片岡	蘭芳	金澤	秀鴛
大野	樹抱	奥村	順子	片桐	千賀子	可児	長望
大野	蘭香	奥村	碧洋	片原	秀園	金丸	翠石
大場	敏充	長田	裕華	加地	孤握	加納	玉珠

鎌倉	彩風	清沢	華舟	香村	孤竹	近藤	由果	柴田	厚実	杉本	扇鈴	仙石	祥香	竹内	梅泉
神谷	采邑	日下部	みゆき	小坂	克子	近藤	由紀枝	柴田	華逕	杉山	瓊川	平	富耀	武内	幽汀
神谷	松扇	艸田	洋子	小島	岐香	齋藤	禹月	柴間	秀瑤	鈴木	愛	高井	香園	竹内	由美
龜井	小琴	草野	慧泉	小嶋	真海	齋藤	芝香	澁谷	鳴風	鈴木	雲峰	高井	東里	武田	優璽
荻田	遵松	葛谷	恵園	小島	瑞月	齊藤	千秋	島田	楓林	鈴木	花園	高木	愛子	武野	桂華
川合	採星	工藤	玉州	小島	瑞香	酒井	光華	志水	玉華	鈴木	華瑤	高木	紅舟	武山	朝路
河合	醉光	工藤	子鷗	小島	雪舟	坂井	香泉	志水	憬堂	鈴木	京楓	高木	光風	武山	春陽
川浦	碧濤	國島	英華	小嶋	千翠	酒井	青桐	清水	好流	鈴木	香萩	高木	紫光	田島	不染
川口	紫泉	久野	天山	小島	初美	酒井	悠泉	清水	春蘭	鈴木	香鵬	高木	清雲	田代	春苑
河口	霄華	倉内	秀佳	小島	泰子	酒井	麗月	清水	翠芳	鈴木	紅瑤	高桑	嚴風	田代	春苑
川口	由美	倉科	清伶	小谷	春苑	桜井	和香	清水	澄園	鈴木	史鳳	高島	濤翠	田代	春苑
川崎	清吟	倉田	珪延	小塚	珠香	櫻木	吟對	清水	流香	鈴木	松屋	高田	香坡	楯	青萌
河田	聖翠	倉田	瀨碧	小塚	珠香	桜場	龍峰	清水	舟泉	鈴木	靜香	高根	桂祥	楯	青萌
川出	泉麗	倉田	朝華	古塚	璃幸	佐々木	雅風	志村	峯遠	鈴木	石城	高橋	花柊	田中	光穂
河原	崎坡青	倉田	葉舟	小寺	彩恵	佐々木	宏潤	志村	舟泉	鈴木	千恵	高橋	華堂	田中	幸江
河村	喜汀	倉橋	華仙	後藤	光飛	佐々木	見枝子	下村	汀柳	鈴木	凍山	高橋	壽香	田中	修文
川本	赫汀	倉橋	高堂	後藤	春洋	笹本	汀風	下村	繫舟	鈴木	美月	高橋	栖雲	田中	春華
川本	大幽	倉橋	松容	後藤	松烟	笹本	都和	東海	林路子	鈴木	美月	高橋	栖雲	田中	春華
神田	閨秀	栗本	珠路	後藤	蘇月	佐藤	悦子	下村	汀柳	鈴木	凍山	高橋	壽香	田中	修文
木澤	麗川	厨	柳青	後藤	玉芙	佐藤	寛山	鈴木	紫香	鈴木	容華	高松	彩月	田中	千翠
岸田	松峰	榎林	春翠	小林	恵風	佐藤	水香	鈴木	蘭峰	鈴木	容華	高松	彩月	田中	千翠
木島	静月	黒川	鵬霄	小林	祥鶴	佐藤	桑碩	鈴木	蘭峰	鈴木	容華	高松	彩月	田中	千翠
北川	爽風	黒田	寿水	小林	翠嶺	佐藤	九龍	須田	静波	鈴木	静波	滝本	白峰	田中	美香
北野	春艸	黒野	芝香	近藤	星崖	真田	鳳風	須田	静波	鈴木	静波	滝本	白峰	田中	美香
北村	光苑	黒柳	景光	近藤	晴翠	三田	蕉葉	関根	玉翠	鈴木	海越	田口	勢望	谷	鴻風
衣川	彰人	小池	玲翠	近藤	青洮	三田	惠翠	関根	玉翠	鈴木	海越	田口	勢望	谷	鴻風
木村	霞月	小宇佐	久美	近藤	梅鶯	式守	白萩	関谷	蒼玄	鈴木	蒼玄	竹内	春翠	谷口	琇苑
木村	明峰	甲谷	富美子	近藤	延子	篠田	祥濤	世古	口大虚	世古	口大虚	竹内	清泉	谷口	琇苑
久徳	蓬香	河村	黄園	近藤	芳玉	篠田	瑞芳	世古	口大虚	世古	口大虚	竹内	清泉	谷口	琇苑



〔半田支部〕
 令和五年十二月十一日(月)午後、(株)中
 日新聞社半田支局を杉江花城支部長、
 江川翠苑支部次長の二名で訪問し、加
 藤半田支局長に「チャリティー愛の募
 金」十万円を寄託して来ました。

千葉 晨翠 堤 光星 鵠澤 澄江
 中条 彰山 坪井 白汀 戸崎 翠虹
 塚田 俊可 勅使河原惠翠 戸田 青楓
 塚本 桃里 寺尾 桑林 戸松 香苑
 築山みなみ 寺岡 春蘭 戸松 紅翠
 土川 青翠 寺島 春恵 富田 蘭月
 土屋 香風 寺西 智鶴 外山 悠汀
 土屋 春聲 寺本 陽春 鳥居 竹泉
 都築 心扇 藤堂 弘風 鳥居 柳城

中村 青煽	野村 曉峰	林 大樹	廣澤 光雪	本田 煌雲	水田 美泉	村松 紫雲	山口 蕙世	吉田 江楓
中村 清園	野々村直子	林 春翠	平光 朱扇	堀部 悠華	水田 珪華	村田 籬香	山岸 邦山	吉田 香雪
中村 翠雲	野中 曾川	林 紫香	平松 心華	堀部 保子	三代 雄峯	村田 光柊	山川 孝子	吉澤 劉石
中村 和則	野田 虹園	林 華泉	平松 圭鳳	堀田 孝子	三島 濟美	村田 華泉	山川 昌泉	吉川 桃華
永平巳旺子	野田 佳楊	早川 緑園	平野 芳碩	堀 梅肇	美希 昌風	村田 華雪	山内 窓楓	吉川 清軒
中野世津香	野口 志園	早川 和子	平野 公慎	堀 穂慧	見神 恵峰	村瀨 季舟	山内 香霖	横井 静嘉
中西 草城	野杖 恰光	羽根 寿子	平野 公鶴	堀田 花	三上 啓鳳	村瀨 薫仍	矢田 紀香	山脇 三枝
中西 笙月	根谷 捷子	花井 蘭徑	平岩 美風	堀田 恵香	丸山 聖峰	村上 美楓	安田 雪篁	山本 小谿
永谷 恵子	根津 郷巴	花井 清水	平井三千代	古山 玉扇	松元 彩華	村上 康山	安田 翠嵐	山本 史鳳
永谷加代子	丹羽 藍水	服部美枝子	平井 華泉	古田 祥扇	松野下華清	村井 康山	安田 彩霞	山本 香川
中田 和香	丹羽 裕	服部 蘇華	日比野妃扇	古川 侃司	松永 秋花	向山 青泉	矢島 潮香	山田 流芳
永田 美幸	丹羽 峰仙	服部 瑞花	日比野寿翠	夫馬 春園	松田 穂婢	三輪田香苑	八木 彩花	山田 有華
永瀨 珠香	丹羽 茜麗	服部 春逕	日比 京馨	藤原 清泉	松田 樹幹	三輪 三麗	森山 溪花	山田 正代
永瀨 紅蘭	丹羽 清郷	服部 華泉	日江井芝香	藤村 真徳	松下 三雪	宮田 清風	森本 夏溪	山田 白陽
中島祐三子	丹羽 春蘭	畑 裕子	坂野 竹童	藤田 寒樹	松下 聖心	宮崎 弘園	守永 藍麗	山田 蹋雲
中島 祥園	仁田脇京華	秦 雪映	坂野 渚月	藤澤 映秀	松下 鶴苑	宮 希蓉	森下 久美	山田 青舫
長島 佳伯	西村 松花	長谷川鸞卿	阪野 小波	藤井 和彦	松澤 昂永	美濃羽城開	森 林華	山田 秀譙
長崎 成秀	西田 康華	長谷川翠流	半田 博子	福西 史呂	松佐古溪水	三野島凌雲	森 政子	山田 紅照
中川 麗香	西垣 梨雪	長谷川眞山	坂 九塔	福谷 紅華	松崎 青漣	皆川 嗣恵	森 冬華	山田 杏華
中川 星光	西垣 美茜	長谷川春香	原田 清尚	福田 徑揚	松崎 朱實	光澤 閑石	森 翠葉	山田 海石
中川 瑞風	西尾 雅子	長谷川華香	原田 圭竹	福鳥 有何	松井 秀麗	溝口 渺然	森 絹泉	山崎 富泉
中川 瑞玉	西 恵香	橋本 成良	原賀 瑞芳	福岡 林泉	松井 秀峰	溝口 純華	森 環翠	山崎 紅影
中川 翔鶴	新山 翠香	羽柴 苔谷	原 霞扇	福井 笙燿	松井香代子	溝口 子静	桃井 祥谷	山崎 曲全
中川 貴舟	新美 珠光	橋詰 桃邨	早野 江郷	深谷 紅蘭	増田 蘭苑	水野美保子	物部 浩子	山口 律舟
中尾 芝菜	新美 秋鳳	萩原 祐子	林田 虎峰	深谷 恵庭	増田 春暉	水野名旺子	元橋 逸舟	山口 幸子
永井 友理	成田 尚子	萩野 琴苑	林 玲玉	深津 洋子	増田 瑞葉	水野 清花	望月 希彩	山口 裕子
永井 青楓	中山 芳泉	則武 穹	林 由美	深田 芳香	牧 瑞葉	水野 清花	望月 希彩	山口 裕子
中井 港星	長屋 天虹	野村 揚月	林 柏堂	深井 尚子	牧 仙岳	水谷 天風	毛利 恵風	山口 竹汀
内藤 春翠	中村 曾南	野村 清涼	林 天翔	広田 陽水	前田千登世	水谷 玉汀	毛利 曉草	山口 如泉

〔西三河支部〕
10万円を寄託
 中部日本書道会西三河支部
 中部日本書道会(名古屋
 市)西三河支部は5日、年
 末助け合い運動の義援金と
 して、10万円を中日新聞社
 会事業団に寄託した。加藤
 矢舟支部長、磯谷凌穂支部
 次長、山岸邦山支部次長が
 中日新聞岡崎支局に届けた
 写真。



中日新聞 2023.12.6(水)

吉田	清城	渡辺	慶心	浅野	揺草	安藤	幸恵	石田	茜華	伊藤	風珠	犬飼	清真
吉田	聖汀	渡辺	月潭	東	瑶琴	伊神	薪水	石田	李舟	伊藤	恵子	犬塚	八重
吉田	桃花	渡邊	香蘭	阿部	光泉	池上	創	石原	宗久	伊藤	紅彩	井上	三保子
吉田	美影	渡辺悠記子		阿部ひろみ		池阪	圭月	石原	久義	伊藤	鴻仁	井上	ゆい
吉原	愛璃			天野	博子	池田	絹子	磯貝	碧雲	伊藤	茂	伊吹	紅鳳
吉村	和子	相崎	実桜	新井	翠眉	井桁	翠咲	磯貝	みえ子	伊藤	紫鳳	今井	金子
吉村	美雪	愛澤	珠翠	新井ひろ子		石川榮利子		磯谷	明舟	伊藤	秀英	今西	道子
米田	匡陽	青木	美洲	荒井	游舟	石川	加翠	五十川	朱翠	伊藤	祥子	今村	禎邨
若杉	美香	青木	来夢	荒川	白扇	石川	彩香	磯部	玉蘭	伊藤	青慶	井本	千游
若林	春麗	青山	和馨	荒木	桃花	石川	桃露	板倉	香淵	伊藤	爲廣	岩崎	翠風
若山	峰湊	青山	和生	安藤	香波	石川	鳴洲	板倉	虹華	伊藤	紀子	岩瀬	祥苑
鷺津	岱嶺	青山	佳白	安藤早百合		石川	恵美	市川	兼正	伊藤	久子	岩瀬	房子
鷺野	紫篁	縣	欣司	安藤	秀苑	石川	裕里加	一柳	純子	伊藤	美扇	岩田	永慎
和田	玉繡	浅井	柚衣	安藤	昭亭	石川	玲香	井出	陽子	伊藤	雛子	岩田	寿泉
渡辺	鶴山	浅野	都鸞	安藤	範香	石川	麗香	伊藤	文野	伊藤	ひとみ	岩田	香翠
		清澄		安藤	美恵	石黒	真泉	伊藤	英美				

〔東三河支部〕
年末助け合い義援金
 中日新聞
 社会事業団
 中部日本書道会支部
 会員らの10万円寄託
 中部日本書道会東三河支
 部の山川孝子支部長写真
 左から2人目と皆川嗣恵
 支部次長同3人目、深井
 尚子支部次長同左端が
 6日、中日新聞豊橋総局を
 訪問。中日新聞社会事業団
 の「年末助け合い運動」
 に、会員らから寄せられた
 10万円を寄託した。



中日新聞 2023.12.7(木)

稲吉	小夜子	内山	雅舟	大鐘	智美未	岡田	洋美	荻野	玉堂	鬼塚	佳香
稲村	洋春	内田	皐月	大石	窓雪	岡田	淡雪	小川	路桜	小田	哲廣
稲葉	翠泉	白井	桃園	江端	穂香	岡崎	真理	小川	裕子	尾関	明美
稲垣	清婉	牛田	光星	榎本	翠峰	岡	幸秀	小川	真由美	小澤	翠嵐
稲垣	流美子	宇佐	美待月	江崎	婦沙子	大山	直美	小川	澄光	納村	翠玉
稲垣	嘉雅	上村	寿子	江口	幽岳	大矢	大月	小川	順子	尾崎	涼舟
稲垣	舞夏	上松	晨陽	梅村	香苑	大平	貴子	小川	敦子	小倉	壽子
稲垣	喜由	上田	清楓	馬場	春蘭	大林	霞風	岡本	裕鼎	奥山	八重子
伊藤	蘭香	上田	馨星	宇野	央子	大野	彩	岡本	芝苑	奥野	鶴扇
伊藤	蘭香	岩本	麗泉	采女	紅楓	大野	光葉	岡田	容子	奥田	桃里
伊藤	蘭徑	岩場	恵子	大久保	春鼎	大野	紀舟				
伊藤	弥生	岩田	純子	大澤	淳風	大野	光葉				
伊藤	雛子	岩田	寿泉	宇野	央子	大野	浩子				
伊藤	ひとみ	岩田	香翠	梅村	香苑	大野	紫玉				
伊藤	美扇	岩田	永慎	馬場	春蘭	大林	霞風				
伊藤	久子	岩瀬	房子	宇野	央子	大野	彩				
伊藤	紀子	岩瀬	祥苑	采女	紅楓	大野	光葉				
伊藤	爲廣	岩崎	翠風	大内	淳風	大野	浩子				
伊藤	青慶	井本	千游	大澤	淳風	大野	光葉				
伊藤	祥子	今村	禎邨	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	秀英	今西	道子	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	紫鳳	今井	金子	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	茂	伊吹	紅鳳	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	鴻仁	井上	ゆい	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	紅彩	井上	三保子	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	恵子	犬塚	八重	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	風珠	犬飼	清真	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	蘭香	上田	馨星	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	美扇	岩田	永慎	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	ひとみ	岩田	香翠	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	雛子	岩田	寿泉	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	弥生	岩田	純子	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	蘭徑	岩場	恵子	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	蘭香	岩本	麗泉	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	蘭香	上田	馨星	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	輝彩	上田	馨星	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	喜由	上田	清楓	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	舞夏	上松	晨陽	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	嘉雅	上村	寿子	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	流美子	宇佐	美待月	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	清婉	牛田	光星	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	翠泉	白井	桃園	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	洋春	内田	皐月	大野	紫玉	大野	彩				
伊藤	小夜子	内山	雅舟	大野	紫玉	大野	彩				

中部日本書道会濃飛支部十万円。会員から集まった義援金を支部長の堀梅肇 〓 写真 〓 と同支部次長の中垣幸聲さん 〓 同 〓 が届けた。



〔濃飛支部〕



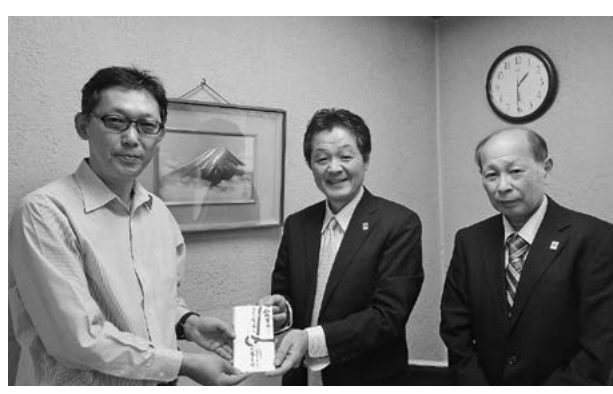
中日新聞 2023.12.8(金) 恵那通信局記事より

尾野 聴石	加藤 蒼琅	河合 澄香	北村 玉鳳
加古 寅起	加藤 大然	川北 博子	木野瀨陽光
笠松 紫芳	加藤 孝子	川口 花園	木村 輝扇
梶川美穂子	加藤 昭代	川瀬 実咲	木村 香葉
春日井静月	加藤 桃徑	河出 長女	木村 和象
糟谷 永子	加藤登紀子	河村 紫夙	金原 恭江
片岡 桂苑	加藤 眉翠	河村 典子	久世たか子
片岡 木蘭	加藤 浩子	河村 雄鳳	沓名 典子
香月 久遠	加藤 芳司	河村 友紀	國廣 寿仙
加藤 生子	金倉あゆみ	川村有紀奈	久野 生麗
加藤 華容	神村 瑤春	川本 青柊	久野 哲仙
加藤 喜峰	神谷 幸穂	川本 俊子	久保田香穂
加藤 珪風	神谷 芳翠	神田 真珠	久保山碧楓
加藤 紫雲	荻谷 有美	神戸 春谷	熊谷 弦謠
加藤 春溪	河合 恵萌	神戸 笙詩	熊崎 香苑
加藤 昭蘭	河合 秀苑	貴島 小舟	久米 水聲
加藤 千冬	川合 碩山	木島 美翔	栗木 美楓

栗山 幽香	榊原 洸苑	篠原 久祥	鈴木 和代	帯刀 溪石
黒柳 真実	坂口 丹華	柴田惠美子	鈴木 京子	田中 桜花
小出 和香	阪田 華香	柴田 恵子	鈴木 香葉	田中 彩鵬
甲谷 千樹	佐久間汀翠	柴田真由美	鈴木 青華	棚橋 紅蘭
鴻巣 玉兔	桜井 花凜	澁谷 弘峯	鈴木 夏代	谷 順子
古賀野五耀	酒向美恵子	島戸 香蘭	鈴木 誠人	谷川 花影
小坂 仁子	佐々木映雪	清水 省子	鈴木 明蓬	谷田 青崖
小澤 松煙	佐々木博山	清水 水僊	鈴木 藍光	玉田 桃苑
小島 華扇	笹本 菜月	清水 由美	鈴木 姫泉	田宮 佑至
小島 湖山	笹山万喜子	志村 玲香	須田 白城	千葉 弘子
小島 静珠	佐藤 恵園	下村 佳風	隅田 玉枝	土本 珠星
小島 大立	佐藤 恵順	正徳 李泉	関村 吟香	土森真寿美
児玉 峰月	佐藤 幸泉	庄野 照香	瀬古 光代	都筑 聖園
後藤 智明	佐藤 紅蘭	白川 眞弓	千田 光麗	角田登美子
後藤 柳月	佐藤 彩柳	陣内 華苑	坪井 精華	坪井 掛溪
小早川恵祥	佐藤 青葩	白井 美翠	高木由紀江	鶴見 常風
小林 洋子	佐藤 敬顕	杉浦 悦子	曾根 和子	坪山 香泉
小松 月泉	佐藤 桃華	杉浦 幸子	高津 朱美	坪井 香泉
小松 翠篁	佐藤 典子	杉浦 直照	高橋 和子	角田登美子
小牟禮優美英	佐橋 爽翠	杉浦 純子	高橋 千代子	角田登美子
子安 杏庭	佐橋 美風	杉浦 芳純	高橋 麗水	角田登美子
古家野弥生	澤田 青草	杉田 樹石	高山さち子	角田登美子
小山 峯雲	澤田 麗香	杉本 和代	滝本 柳烟	角田登美子
近藤 明彦	三野美恵子	杉本 錦楊	遠山 重則	角田登美子
近藤 香月	塩野谷厚志	杉山 恵子	遠山 正幸	角田登美子
近藤 嘉江	志賀 禾州	杉山千鶴子	遠山 柳恵	角田登美子
斎藤 玲翠	志津野穂夏	杉山 秀夫	遠山 春美	角田登美子
斎藤 矧川	篠崎 芳園	杉山 洋子	徳倉 江舟	角田登美子
榊原 観峰	篠田 仰信	田澤 扇華	富田 梢峰	角田登美子

〔北勢支部〕

令和五年十一月二十八日(火)午後、中日新聞四日市支局へ支部長荒木友梅と副支部長中条彰山が伺い、令和五年度チャリティ愛の募金として十万円を小池豊徳支局長に寄託しました。



第74回 中日書きぞめ展

会 期 令和 6 年 3 月 9 日(土)～ 3 月 10 日(日)

会 場 ナディアパーク 2 階 アトリウム 名古屋市中区栄三丁目 18-1

授賞式 令和 6 年 3 月 10 日(日) 午後 2 時 ナディアパーク 3 階 デザインホール

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

記

○書道教室推薦証等交付申請書 一通 (申請書は本部へご請求下さい)

○推薦証(別記)

○推薦看板(写真)

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

○本会正会員及び

○選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

(承認後ご連絡いたします)

○ので振替用紙にてお振込み下さい)

○担当 教育部

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

公益社団法人 中部日本書道会推薦教室

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

令和 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名(姓) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	〒
ふりがな	
指導者名(申請者名)	中日書道展 格 賞
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 令和 年 月 日
交付年月日 令和 年 月 日
交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

会費未納の方へお願い

年度末も間近となっております。
令和五年度会費未納の方は、至急お納め下さい。
(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方)
本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。
支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等

変更事項は本部までご一報下さい。

052 (583) 1900

あ тогоき
明けましておめでとうございませう。
令和六年、中日会報新年号をお届け致します。
本号では、コロナの影響が徐々に治まりつつある中開催されました各事業の詳細をご報告させて頂いております。
本会は今年、創立九十周年を迎える事となり、記念の中日書道展や『書に臨むー私はこう観るー』と題した特別展覧会をはじめ、他にも記念事業としての展示やパフォーマンスの開催実施予定をしております。
中日書道会では、九十周年事業となりまして、会員の皆様の一層のご協力を宜しくお願ひ、成功裡に導いてまいりませう。
元旦に発生致しました能登半島地震の被災者の皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。
冥福をお祈り致します。(編集部)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス info@cn-sho.or.jp

訃 報

- 心より哀悼の意を表し(ご報告申し上げます)
- 10月16日 上 げ ます。
- 10月16日 準 会 員 馬場桃連氏 (厚生部)
- 10月31日 監 事 村上史麗氏
- 11月2日 お 母 堂 確永充子様
- 11月2日 正 会 員 安井柏陽氏
- 11月4日 評議員 高松彩月氏
- 11月4日 お 母 堂 森 恒代様
- 11月7日 享年 76
- 11月8日 評議員 高須大河氏
- 11月8日 参 与 五井花径氏
- 11月8日 評議員 五井紀久子様
- 11月8日 享年 83
- 11月10日 評議員 神谷采邑氏
- 11月27日 正 会 員 神谷芳昭様
- 12月3日 正 会 員 酒田翠翠様
- 12月3日 名譽会 長 神田真秋氏
- 12月8日 参 与 会 員 神田美保子様
- 12月8日 参 与 会 員 村田華穂氏
- 12月25日 参 与 会 員 高須大河氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井花径氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井紀久子様
- 12月25日 享年 91
- 12月25日 参 与 会 員 高須大河氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井花径氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井紀久子様
- 12月25日 享年 98
- 12月25日 参 与 会 員 高須大河氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井花径氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井紀久子様
- 12月25日 享年 91
- 12月25日 参 与 会 員 高須大河氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井花径氏
- 12月25日 参 与 会 員 五井紀久子様
- 12月25日 享年 91

社中展・個展のご案内掲載について

- 第七十回公募 ふちな三展
会期 六年三月五日(火)～十日(日)
会場 愛知芸術文化センター 八階
主催 ふちな三会
本会会員による書展のご案内を会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載には、展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内原稿及びハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送りください。次号掲載は、五月下旬～八月中旬開催の展覧会となります。お申し込みは、三月二十日までに本部へお願いします。編集部
- 第四十四回墨友会書作展
会期 六年三月二十九日(金)～三十一日(日)
会場 四日市市立博物館 四階特別展示室
作品は『平和』をテーマに創作を試みました。
主催 墨友会代表 加藤子華